

京丹後市の新たな教育・人材育成の 在り方に関する検討会資料

魅力ある府立高校づくりについて

令和5年10月17日（火）

京都府丹後教育局

指導主事 田中 努

本日の内容

- 1 基本的な考え方
- 2 今後の府立高校の在り方
- 3 今後の入学者選抜の在り方

基本的な考え方

「府立高校の果たすべき役割」 (ビジョン第2部 I 章 基本的な考え方)

本府は地理的に見て南北に長く、人口の分布や交通の利便性などの生活環境が地域によって大きく異なる。すなわち、各府立高校を取り巻く環境も多様であると言える。

そうした地域の実情を踏まえつつ、府立高校においては、公教育の場として教育の機会を保障するとともに、選択肢の多様性を確保することを第一義的に捉え、幅広く多様な生徒を受け入れ、「すべての生徒が夢や希望を持ち、未来に向かっていきいきと学ぶことができる高校」を目指す。

基本的な考え方

懇話会での意見の視点

- 南部地域と北部地域など地域の実情を踏まえつつ、幅広い生徒の様々なニーズに応えるとともに、果たすべき社会的役割に応じた魅力ある学校づくりを推進すること
- 教育の質を確保し、活力ある学校づくりのために一定の学校規模が必要であること
- 多くの生徒が入学する全日制普通科では、一層の特色化、魅力化を図り、中学生等に向けて明確に発信すること

今後の府立高校の在り方

1 全日制過程の魅力化と配置等の在り方

(1) 普通科・普通科系専門学科

【丹後通学圏】

京都府立峰山高等学校

普通科

京都府立宮津天橋高等学校

宮津学舎

普通科（単位制）

加悦谷学舎

普通科（単位制）

京都府立丹後緑風高等学校

網野学舎

普通科（単位制）

京都府立丹後緑風高等学校

久美浜学舎

みらいクリエイイト科

（普通科系専門学科 単位制）

今後の府立高校の在り方

- グローバル化、デジタル化等の社会変化に対して、各地域内における役割分担や機能強化等により、社会を牽引するリーダー人材の育成、地域と連携・協働した学び、基礎・基本的な学び直しなどの多彩な選択肢を提供する。
- 普通科系専門学科においては、探究活動等を通して、高度で特色ある専門的な教育内容を充実させる。
- 普通科の魅力化、特色化を一層推進するために、既設の普通科または普通科系専門学科・コースを見直した新しい普通科
※（学際領域、地域社会に関する学科等）を各通学圏に設置する。

今後の府立高校の在り方

(2) 職業学科及び総合学科

【丹後通学圏】

職業学科

京都府立海洋高等学校

海洋学科群 (水産)

京都府立宮津天橋高等学校宮津学舎

建築科 (工業)

京都府立峰山高等学校

機械創造科 (工業)

京都府立丹後緑風高等学校網野学舎

企画経営科 (商業)

京都府立丹後緑風高等学校久美浜学舎

アグリサイエンス科

総合学科

(農業)

京都府立清新高等学校

総合学科 (昼間定時制)

今後の府立高校の在り方

- 職業学科及び総合学科設置校については、学科の再構成や募集定員の設定の在り方等を検討し、地域バランスや地域の魅力を考慮した学校、学科の配置とする。
- 府産業教育審議会における議論のもと、産業教育の一層の魅力化を推進する。
- 「府立高校産業教育デジタル化事業費」等によって充実させた設備を最大限活用し、実社会で通じる実践的な産業教育を推進する。

今後の府立高校の在り方

(3) 京都府立大学附属高校化

- 「新生・京都府立大学」改革プランに基づく大学改革に応じて、農林業系専門分野において附属高校を設置し、府立大学との相互連携を高度化させる。

今後の府立高校の在り方

(4) 全日制高校の配置等の在り方

<南部地域（京都市・乙訓地域、山城地域）>

- 1 学年 6 学級から 8 学級程度（学校全体で 18 学級から 24 学級）を望ましい学校規模とし、地域内での通学利便性や学科を含む高校の設置状況、公立中学校 3 年生数の将来推移などを総合的に判断して、各地域内における学校の配置・役割を見直す。
ただし、一律的・機械的な平準化は行わない。

今後の府立高校の在り方

<北部地域（口丹地域、中丹地域、丹後地域）>

- 地元地域からの入学状況等も含めて総合的に判断し、更なる小規模化により生じる教育活動の課題を解消するために、各地域内における学校の配置・役割を見直す。

今後の府立高校の在り方

- 学校配置の見直しにあたっては、政府統計による高校生の平均通学時間※を目安として考慮する。ただし、北部地域など地理的状況により個別の実情がある場合には総合的に判断する。
- 設置する課程・学科等において果たすべき役割、魅力や特色をスクール・ミッション※及びスクール・ポリシー※において明確化する。これらは実施計画の策定などに合わせて改訂することがある。
なお、定時制課程、通信制課程についても同様に取り扱いすることとする。

今後の府立高校の在り方

- 探究活動や地域の企業と連携したキャリア教育の企画・運営、地域人材や教育資源との連絡・調整など、府立高校と地域社会との連携・協働を担うコーディネーター※体制の整備を進める。
- 特色ある府立高校に開放型地域クラブ※を新たに設置し、中学校部活動の地域移行においての活動拠点にするなど地域のスポーツ・文化芸術活動の推進につなげる。
例) 京都府立宮津天橋高校加悦谷学舎
陸上競技・ウエイトリフティング
京都府立海洋高校・丹後緑風高校網野学舎 レスリング

今後の府立高校の在り方

2 定時制・通信制課程の魅力化と配置等の在り方

- 京都フレックス学園構想による成果・課題を踏まえ、各地域における生徒の状況やニーズに応じて、定時制課程の配置を見直す。その際、現在の定時制課程が果たしている役割、全日制課程との関連性等も考慮して検討する。
- 通信制課程では、通学による対面授業とICTを活用したオンライン授業によるハイブリッド型の学習、転・編入制度の弾力化、通信制課程での履修科目を全日制課程・定時制課程で単位修得可能とするなど他課程との連携を含めた、新しいシステムの構築を推進する。

今後の府立高校の在り方

3 柔軟な教育システムによる魅力化

(1) 新しいスタイルの全日制高校

- 単位制により、卒業に必要な単位数を 74 単位で設定する緩やかな教育課程と、複合的な教育システムによって、生徒の将来への挑戦をサポートする新しいスタイルの全日制高校を設置する。

今後の府立高校の在り方

(想定する教育システムの例)

- 2期制※により半期のみでの単位修得も可能とする
 - 通学時間帯や科目の選択を可能とする
 - 定通併修など異なる課程間での教科・科目等履修システムを構築する
 - 通級による指導※を導入する など
- 新しいスタイルの全日制高校は、京都フレックス学園構想による昼間定時制単独高校との関係性を踏まえて、バランスの良い配置を検討する。

今後の府立高校の在り方

(2) 特別支援教育の充実

- 高校教育段階での特別支援教育を充実させるため、特別支援学校高等部の分校の併設など府立高校でのインクルーシブ教育環境を構築する。また、各地域の地域支援センター※との連携を強化する。
- 府立高校での通級による指導は、京都フレックス学園構想による昼間定時制単独高校における実践や成果を検証し、拡充を図る。

今後の府立高校の在り方

4 高校設置者間の協調・協議

- 加速化する少子化への対応をはじめとする公立高校と私立高校設置者間の共通課題について、「京都府公私立高等学校協議会」において、中長期的な生徒受入対策等を協議していく。

今後の府立高校の在り方

5 学校施設等の整備

- 長寿命化対策による学校施設の大規模改修等を計画的に推進する。
- 学校、学科の配置見直しなど魅力化を図る際には、合わせて学校施設・設備の重点的な整備を実施する。
- 職業学科設置校では、意欲や目的意識の高い生徒が切磋琢磨できる教育環境を充実させるため、全国からも生徒を募集できる制度、寮や産業教育設備など特色ある施設等の整備を推進する。

今後の入学者選抜の在り方

- 現行の入学者選抜における成果と課題を、京都府教育委員会及び京都市教育委員会が連携して、関係する公立中学校・高等学校の代表者と検証・整理した上で、よりよい入学者選抜制度にするための検討を進める。

なお、見直しを実施する場合には、その対象となる中学生にとって、進路選択等に一定の準備期間が必要になることに配慮し、できる限り早期に実施時期を示すこととする。

ご清聴ありがとうございました。